諸國日々錦繪集

二百七十六号

飾磨縣下中村ふ住る田村亀吉
なるものを業とするふ明治七
戌十二月十五日士族二名此家へ
止宿す又商人一人隣の
間ふ止宿せり若干の
金を主ふ預け安心
して即せり夜半ニ及び
ちらりと脇さろぎちろれば隣の
士族ふねぶるくべ君の傍ふふさ
しめみくと云ろれば情ある者そ
業を与へふはしめろう亀吉の
息い隣家ふあそびて夜ふけて
皈り商人の寐床
足辛ひとふ
らりる父い
かくともちろそ
の短刀持てちのび来り我子ちつもちろび
喉を只一刀ふはし通し元手ふ陰嚢を
つらくちろれば聲をもらげで
ちってぐり士族い此音ふめろすを
立聞ろく朝亀吉を縛して
其區の會議所へ送らろく

柳櫻記

旅籠屋亀吉

彫作 廣川 寅